

# Bladeテンプレート

## テンプレート機能とは

ほとんどのWebサイトやWebアプリケーションでは、さまざまなページ間で同じレイアウトを共有しています。

作成するページでレイアウト全体のHTMLを繰り返さなければならない場合、アプリケーションを維持するのは非常に面倒になってしまいます。

laravelではレイアウトが共通している箇所をテンプレート化して読み込むことで、アプリケーションの管理を容易にすることができます。

## レイアウトの定義

Laravelでは、Bladeテンプレートというレイアウト機能を提供してくれています。

テンプレートとなるレイアウトファイルは、「resources/views」フォルダの中に「**layouts**」という名前のフォルダを作成して、そのフォルダ内に作成していきます。

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
  <meta charset="UTF-8">
  <meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1.0">
  <meta http-equiv="X-UA-Compatible" content="ie=edge">

  <link href="{{ mix('css/app.css') }}" rel="stylesheet">

  <title>@yield('pageTitle') - サーバーサイドスクリプト演習2</title>
</head>
<body>
<div class="container">

  @yield('content')

</div><!--/.container-->
<script src="{{ mix('js/app.js') }}"></script>
</body>
</html>
```

## レイアウトの拡張

ページのビューを定義するときは、「**@extends**」を使用して、ページビューが継承するのレイアウトを指定します。

ページビュー側では、「**@section**」を使用して、レイアウトビューのセクションにコンテンツを挿入することができます。

上記サンプル内でもあるように、ページビューからのセクションの内容を「**@yield**」を使用して表示できます。

```
@extends( 'layouts.sample' )

@section( 'pageTitle', 'サンプル3' )

@section( 'content' )

@endsection
```

## テンプレートの継承

**@extends**でページにレイアウトを継承することができます。

```
@extends( 'layouts.layout_file_name' )
```

**@yield**と**@section**を使うことで、テンプレートを継承したページビュー側からデータを当てはめることができます。

```
@yield( 'section_name' )  
@section( 'section_name', 'data' )
```

複数行に渡るHTML構造を@yieldへ当てはめたい場合は、「**@endsection**」を使うことで、**@section**から**@endsection**までの間に挟まれた範囲のデータを@yieldへ当てはめることも可能になります。

```
@section( 'section_name' )  
<div>  
  <h2>見出し</h2>  
  <p>文章</p>  
</div>  
@endsection
```

## フロントエンドのコーディングをコンパイルする

Tailwind CSSを使ったCSSを適用する場合は、NodeJSのコンパイルを実行して初めてページ内で使用されているTailwind CSSのクラスの設定がCSSファイルに追加されます。

そのため、CSSの設定内容をページに反映させるためには、必ずNodeJSのコンパイルを動かさなければいけません。

※ ページ内で使用している必要最低限のCSSが出力される

```
npm run dev
```

CSSの修正、確認のたびにコンパイルを実行するのは効率が悪いので、変更があるたび（ファイルが保存される）に自動的にコンパイルを実行する命令も用意されております。

```
npm run watch
```